

# イソチアニル 農薬蜜蜂影響評価書

2023年12月26日

農業資材審議会農薬分科会

農薬蜜蜂影響評価部会

## 目 次

<経緯> .....	2
<農薬蜜蜂影響評価部会委員名簿> .....	2
I. 評価対象農薬の概要 .....	3
1. 有効成分の概要 .....	3
2. 有効成分の物理的・化学的性状 .....	4
3. 申請に係る情報 .....	5
4. 作用機作 .....	5
5. 適用病害虫の範囲及び使用方法（別添参照） .....	6
II. ミツバチに対する安全性に係る試験の概要 .....	9
1. ミツバチに対する安全性に係る試験 .....	9
2. ミツバチ個体への毒性（毒性指標） .....	10
3. 花粉・花蜜残留試験 .....	13
4. 蜂群への影響試験 .....	13
III. 毒性指標 .....	14
1. 毒性試験の結果概要 .....	14
2. 毒性指標値 .....	14
3. 毒性の強さから付される注意事項 .....	14
IV. 暴露量の推計 .....	15
V. 評価結果 .....	15
評価資料 .....	15
評価資料（公表文献） .....	15

<経緯>

令和 4 年 (2022年) 12 月 14 日	農業資材審議会への諮問
令和 5 年 (2023年) 8 月 24 日	農業資材審議会農薬分科会 農薬蜜蜂影響評価部会 (第10回)
令和 5 年 (2023年) 9 月 25 日 から10 月 24 日	国民からの意見・情報の募集
令和 5 年 (2023年) 12 月 26 日	農業資材審議会農薬分科会 農薬蜜蜂影響評価部会 (第11回)

<農薬蜜蜂影響評価部会委員名簿> (第 10 回、第 11 回)

(委員)

五箇 公一

與語 靖洋

(臨時委員)

山本 幸洋

(専門委員)

稲生 圭哉

永井 孝志

中村 純

横井 智之

# イソチアニル

## I. 評価対象農薬の概要

### 1. 有効成分の概要

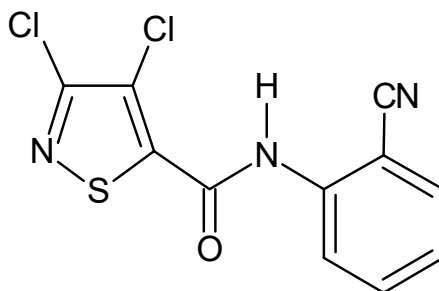
- 1.1 申請者 住友化学株式会社
- 1.2 登録名 イソチアニル  
3,4-ジクロロ-2'-シアノ-1,2-チアゾール-5-カルボキサニリド
- 1.3 一般名 isotianil (ISO 名)
- 1.4 化学名  
IUPAC名 : 3,4-dichloro-2'-cyano-1,2-thiazole-5-carboxanilide  
  
CAS名 : 3,4-dichloro-*N*-(2-cyanophenyl) -5-isothiazolecarboxamide  
(CAS No. 224049-04-1)
- 1.5 コード番号 BYF01047, S-2310

## 1.6 分子式、構造式、分子量

分子式

C<sub>11</sub>H<sub>5</sub>Cl<sub>2</sub>N<sub>3</sub>OS

構造式



分子量

298.15

## 2. 有効成分の物理的・化学的性状

試験項目		純度 (%)	試験方法	試験結果	
色調・形状		98.8	目視	白色・固体(粉末)	
臭気		98.8	官能法	わずかな芳香臭	
融点		98.8	OECD 102	193.7~195.1°C	
沸点		98.8	OECD 103	測定不能(372°C付近で分解)	
密度		98.8	OECD109	1.11 g/cm <sup>3</sup> (20°C)	
蒸気圧		99.5	OECD 104	< 8.7 × 10 <sup>-9</sup> Pa (35°C)	
熱安定性		98.8	OECD 113	282°Cまで安定	
溶解度	水	99.5	OECD 105	0.50 mg/L (20°C)	
	有機溶媒	ヘキサン	98.8	OECD 105	0.0594 g/L (20°C)
		トルエン			6.87 g/L (20°C)
		ジクロロメタン			16.6 g/L (20°C)
		アセトン			4.96 g/L (20°C)
		メタノール			0.775 g/L (20°C)
		酢酸エチル			3.62 g/L (20°C)
解離定数 (pK <sub>a</sub> )		99.5	OECD 112	8.92 (20°C)	
1-オクタノール/水分配係数 (log P <sub>ow</sub> )		99.5	OECD 107	2.96(25°C、pH 7.2)	
加水分解性		>99	OECD 111	半減期 60.8~71.4 日(25°C、pH 7)	
水中光分解性		>99	12農産第8147号	半減期2.2日 (pH6.5滅菌蒸留水、25°C、27.95 W/m <sup>2</sup> 、300~400 nm)	

試験項目	純度 (%)	試験方法	試験結果																					
紫外可視吸収 (UV/VIS) スペクトル	98.8		<table border="1"> <thead> <tr> <th>極大吸収波長 (nm)</th> <th>吸光度</th> <th>モル吸光係数 (L mol<sup>-1</sup> cm<sup>-1</sup>)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">中性(メタノール)</td> </tr> <tr> <td>279</td> <td>0.684</td> <td>10200</td> </tr> <tr> <td colspan="3">酸性(pH0.8)</td> </tr> <tr> <td>279</td> <td>0.668</td> <td>9950</td> </tr> <tr> <td colspan="3">アルカリ性(pH13.3)</td> </tr> <tr> <td>266</td> <td>0.701</td> <td>10500</td> </tr> </tbody> </table>	極大吸収波長 (nm)	吸光度	モル吸光係数 (L mol <sup>-1</sup> cm <sup>-1</sup> )	中性(メタノール)			279	0.684	10200	酸性(pH0.8)			279	0.668	9950	アルカリ性(pH13.3)			266	0.701	10500
		極大吸収波長 (nm)	吸光度	モル吸光係数 (L mol <sup>-1</sup> cm <sup>-1</sup> )																				
		中性(メタノール)																						
		279	0.684	10200																				
		酸性(pH0.8)																						
		279	0.668	9950																				
		アルカリ性(pH13.3)																						
266	0.701	10500																						
試験項目		試験方法	試験結果																					
土壌吸着係数		OECD106	K <sup>ads</sup> <sub>Foc</sub> : 497~1596(4種類の国内土壌)																					
土壌残留性		記載なし	粒剤、水田土壌(2種類) : 半減期 0.5~13日 (土壌の深さ10 cm、減衰曲線による推定値)																					
		30消安第6278号	水和剤、畑地土壌(2種類) : 半減期 4.9~7.4日(土壌の深さ0~10 cm、FOMCモデルによる推定値) 半減期 4.5~7.1日(土壌の深さ0~20 cm、FOMCモデルによる推定値)																					

### 3. 申請に係る情報

中国、韓国、豪州等で登録されている。

### 4. 作用機作

イソチアゾール環を持つ殺菌剤である。病原菌に対する直接的な作用はなく、植物病害抵抗性関連酵素の作用を亢進させる。(FRAC 分類 : P3※)

※参照 : <https://www.frac.info/>

## 5. 適用病害虫の範囲及び使用方法 (54 製剤、別添参照)

- ・スタウトダントツ箱粒剤及びボクシー粒剤  
(クロチアニジン 1.5%・イソチアニル 2.0%粒剤)
- ・スタウトダントツ箱粒剤 0.8 及びツインターボ箱粒剤 0.8  
(クロチアニジン 0.80%・イソチアニル 2.0%粒剤)
- ・ルーチン粒剤及びクミアイルーチン粒剤  
(イソチアニル 3.0%粒剤)
- ・ルーチンアドマイヤー箱粒剤及びクミアイルーチンアドマイヤー箱粒剤  
(イミダクロプリド 2.0%・イソチアニル 2.0%粒剤)
- ・ルーチンアドスピノ箱粒剤  
(イミダクロプリド 2.0%・スピノサド 1.0%・イソチアニル 2.0%粒剤)
- ・ルーチンアドスピノ G T 箱粒剤及びシャリオ箱粒剤  
(イミダクロプリド 2.0%・スピノサド 1.0%・イソチアニル 2.0%・  
チフルザミド 3.0%粒剤)
- ・ルーチンバリアード箱粒剤  
(チアクロプリド 1.5%・イソチアニル 2.0%粒剤)
- ・ツインターボフェルテラ箱粒剤  
(クロチアニジン 1.5%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤)
- ・ルーチントレス箱粒剤  
(イミダクロプリド 2.0%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤)
- ・箱いり娘粒剤及びボクシーWR 粒剤  
(クロチアニジン 1.5%・スピネトラム 0.50%・イソチアニル 2.0%・  
フラメトピル 4.0%粒剤)
- ・スタウト顆粒水和剤  
(イソチアニル 40.0%水和剤)
- ・ルーチンフロアブル  
(イソチアニル 18.3%水和剤)
- ・サイクルヒット箱粒剤及びフルターボ箱粒剤  
(クロチアニジン 1.5%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%・  
フラメトピル 4.0%粒剤)
- ・スタウトダントツ顆粒水和剤及びツインターボ顆粒水和剤  
(クロチアニジン 15.0%・イソチアニル 20.0%水和剤)
- ・エバーゴルフォルテ箱粒剤  
(イミダクロプリド 2.0%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)
- ・エバーゴルワイド箱粒剤及びエバーゴルプラス箱粒剤  
(イミダクロプリド 2.0%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%・  
ペンフルフェン 2.0%粒剤)

- ・箱王子粒剤  
(クロチアニジン 1.5%・スピネトラム 0.50%・イソチアニル 2.0%粒剤)
- ・スタウトパディート箱粒剤、ルーチンデュオ箱粒剤、ツインパディート箱粒剤及びルーチンパンチ箱粒剤  
(シアントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤)
- ・ボクシーS P粒剤  
(クロチアニジン 1.5%・スピネトラム 0.50%・イソチアニル 2.0%粒剤)
- ・ルーチンエキスパート箱粒剤  
(イミダクロプリド 2.0%・スピノサド 1.0%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)
- ・スタウトパディートD X箱粒剤  
(クロチアニジン 0.80%・シアントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤)
- ・箱大臣粒剤  
(クロチアニジン 1.5%・イソチアニル 2.0%・フラメトピル 4.0%粒剤)
- ・ハコナイト粒剤  
(クロチアニジン 1.5%・フィプロニル 1.0%・イソチアニル 2.0%粒剤)
- ・ルーチンブライト箱粒剤  
(シアントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)
- ・スクラム箱粒剤  
(クロラントラニリプロール 0.75%・トリフルメゾピリム 0.75%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)
- ・防人箱粒剤  
(クロラントラニリプロール 0.75%・トリフルメゾピリム 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤)
- ・箱維新粒剤及び箱将軍粒剤  
(クロラントラニリプロール 0.75%・トリフルメゾピリム 0.75%・イソチアニル 2.0%・フラメトピル 4.0%粒剤)
- ・フルスロットル箱粒剤  
(シアントラニリプロール 0.75%・トリフルメゾピリム 0.75%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)
- ・ルーチンコア箱粒剤  
(チアクロプリド 1.45%・イソチアニル 2.0%粒剤)
- ・ルーチンシードF S  
(イソチアニル 41.7%水和剤)
- ・ヨーバルトップ箱粒剤  
(テトラニリプロール 1.5%・イソチアニル 2.0%粒剤)
- ・ミネクトブラスター顆粒水和剤  
(シアントラニリプロール 15.0%・イソチアニル 40.0%水和剤)

- ヨーバルパワーE V箱粒剤  
(テトラニリプロール 1.5%・ピメトロジン 3.0%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)
- ヨーバルプライムE V箱粒剤  
(テトラニリプロール 1.5%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)
- ヨーバルUG箱粒剤  
(テトラニリプロール 1.5%・ピメトロジン 3.0%・イソチアニル 2.0%粒剤)
- スタウトアレス箱粒剤及び稲名人箱粒剤  
(オキサズスルフィル 2.0%・イソチアニル 2.0%粒剤)
- ミネクトフォルスターSC  
(シアントラニリプロール 6.5%・イソチアニル 17.4%・ペンフルフェン 17.4%水和剤)
- スタウトアレスモンガレス箱粒剤及び稲大将箱粒剤  
(オキサズスルフィル 2.0%・イソチアニル 2.0%・インピルフルキサム 2.0%粒剤)
- レアフロアブル  
(イソチアニル 18.3%水和剤)

## II. ミツバチに対する安全性に係る試験の概要

### 1. ミツバチに対する安全性に係る試験

イソチアニルのミツバチに対する安全性に係る試験を表1に示す。

表1：ミツバチに対する安全性に係る試験

試験の種類	評価段階	試験数	公表文献数*
成虫単回接触毒性試験	第1段階	1	0
成虫単回経口毒性試験		1	0
成虫反復経口毒性試験		1	0
幼虫経口毒性試験		0	0
花粉・花蜜残留試験		0	
蜂群への影響試験	第2段階	0	

\* (参考) 公表文献の検索結果

(生活環境動植物及び家畜に対する毒性に関する分野)

データベース名: Web of Science (Core Collection)、MEDLINE、KCI-Korean Journal Database、Russian Science Citation Index、SciELO Citation Index及びJ-STAGE

検索対象期間: 2006年7月1日から2021年6月30日

「生活環境動植物及び家畜に対する毒性に関する分野」に該当する文献数	42
-----------------------------------	----



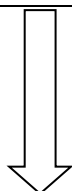
【表題と概要に基づく適合性の有無の評価】  
明らかに評価の目的と適合しない文献の除外

「適合性なし」以外の文献数	9
---------------	---



【全文に基づく適合性の有無の評価】  
評価の目的と適合しない文献の除外

「適合性あり」の文献数	0
-------------	---



【適合性の分類】  
分類基準を設定して全文をレビューし、評価目的への適合性を  
a、b、c の3つの区分に分類  
区分a: リスク評価パラメーターを設定又は見直すために利用可能と判断される文献  
区分b: リスク評価パラメーターを設定する際の補足データとして利用が可能と想定される文献  
区分c: a又はbに分類されない文献

「区分a」及び「区分b」に分類された文献数	a	b
	0	0



試験生物として「セイヨウミツバチ (*Apis mellifera*)」  
を用いている

審議の対象とする文献数	a	b
	0	0

## 2. ミツバチ個体への毒性（毒性指標）

### 2.1 成虫単回接触毒性試験

セイヨウミツバチ成虫を用いた単回接触毒性試験が実施され、48 h LD<sub>50</sub>は >100 µg ai/beeであった。

表 2：単回接触毒性試験結果（資料 1、2012 年）

被験物質	原体		
供試生物/反復	セイヨウミツバチ( <i>Apis mellifera</i> )/ 5反復、10頭/区		
準拠ガイドライン	OECD 214(1998)		
試験期間	48 h		
投与溶媒(投与液量)	アセトン(5µL)		
暴露量 (設定量に基づく有効成分換算値) (µg ai /bee)	対照区 (無処理) (死亡率 %)	対照区 (アセトン) (死亡率 %)	100
死亡数/供試生物数 (48 h)	0/50 (0%)	0/50 (0%)	0/50
観察された行動異常	なし		
LD <sub>50</sub> (µg ai /bee) (48 h)	>100		

## 2.2 成虫単回経口毒性試験

セイヨウミツバチ成虫を用いた単回経口毒性試験が実施され、48 h LD<sub>50</sub>は >108.8 µg ai/beeであった。

表 3：単回経口毒性試験結果（資料 1、2012 年）

被験物質	原体		
供試生物/反復	セイヨウミツバチ( <i>Apis mellifera</i> )/ 5反復、10頭/区		
準拠ガイドライン	OECD 213(1998)		
試験期間	48 h		
投与溶液(投与液量)	シュガーシロップ (100~200 mg/区)		
助剤(濃度%)	アセトン(5%)		
暴露量 (実測値(摂餌量による補正值)に基づく有効成分換算値) (µg ai/bee)	対照区 (無処理) (死亡率 %)	対照区 (アセトン) (死亡率 %)	108.8
死亡数/供試生物数 (48 h)	0/50 (0.0%)	0/50 (0.0%)	0/50
観察された行動異常	なし		
LD <sub>50</sub> (µg ai/bee) (48 h)	>108.8		

### 2.3 成虫反復経口毒性試験

セイヨウミツバチ成虫を用いた反復経口毒性試験が実施され、10 d LDD<sub>50</sub> は>4.20 µg ai/bee/day であった。

表 4：反復経口毒性試験結果（資料 2、2016 年）

被験物質	原体						
供試生物/反復	セイヨウミツバチ( <i>Apis mellifera</i> )/ 4反復、10頭/区						
準拠ガイドライン	KLING, A. and SCHMITZER, S. (2015) 及びOECD TG(草案)						
試験期間	10 d						
投与溶液	50%ショ糖溶液						
助剤(濃度%)	アセトン(5 %)+Tween80 (1 %)+キサントラン(0.1%)						
暴露量 (実測値(摂餌量による補正值)に基づく有効成分換算値) (µg ai/bee/day)	対照区 (死亡率 %)	助剤 対照区 (死亡率 %)	0.70	1.18	1.66	2.27	4.20
死亡数/供試生物数 (10 d)	1/40 (2.5%)	2/40 (5.0%)	3/40	2/40	1/40	1/40	3/40
観察された行動異常	運動障害						
LDD <sub>50</sub> (µg ai/bee/day) (10 d)	>4.20						

**2.4 幼虫経口毒性試験**

該当なし

**3. 花粉・花蜜残留試験**

該当なし

**4. 蜂群への影響試験**

該当なし

### Ⅲ. 毒性指標

#### 1. 毒性試験の結果概要

毒性試験の結果概要を表 5 に示す。

表 5：各試験の毒性値一覧

毒性試験	毒性値	
	エンドポイント	試験1
成虫単回接触毒性	48 h LD <sub>50</sub>	>100 µg ai/bee
成虫単回経口毒性	48 h LD <sub>50</sub>	>108.8 µg ai/bee
成虫反復経口毒性	10 d LDD <sub>50</sub>	>4.20 µg ai/bee/day

#### 2. 毒性指標値

成虫単回接触毒性については、48 h LD<sub>50</sub> 値 (>100 µg ai/bee) を採用し、毒性指標値を 100 µg ai/bee とした。

成虫単回経口毒性については、48 h LD<sub>50</sub> 値 (>108.8 µg ai/bee) を採用し、毒性指標値を 100 µg ai/bee とした。

成虫反復経口毒性については、10 d LDD<sub>50</sub> 値 (>4.20 µg ai/bee/day) を採用し、毒性指標値を 4.2 µg ai/bee/day とした。

イソチアニルのミツバチへの影響評価に用いる毒性指標値を表 6 に示す。

表 6：イソチアニルのミツバチへの影響評価に用いる毒性指標値

生育段階	毒性試験の種類	毒性指標値(単位)	
成虫	単回接触毒性	48 h LD <sub>50</sub> (µg ai/bee)	<b>100</b>
	単回経口毒性	48 h LD <sub>50</sub> (µg ai/bee)	<b>100</b>
	反復経口毒性	10 d LDD <sub>50</sub> (µg ai/bee/day)	<b>4.2</b>

#### 3. 毒性の強さから付される注意事項

成虫単回接触毒性及び成虫単回経口毒性共に LD<sub>50</sub> は 11 µg/bee 以上であったため、注意事項は要しない。

#### IV. 暴露量の推計

本剤は、昆虫成長制御剤に該当せず、成虫の急性接触毒性（単回接触毒性試験の LD<sub>50</sub> 値）が 11 µg/bee 以上であること、及び成虫の急性接触毒性以外の毒性値が超値（成虫単回経口毒性試験 LD<sub>50</sub> : >108.8 µg/bee、成虫反復経口毒性試験 LDD<sub>50</sub> : >4.20 µg/bee/day）であることから、リスク評価を行う対象とはしない。そのため、暴露量の推計は行わない。

#### V. 評価結果

イソチアニルは、申請された適用方法に基づき使用される限りにおいて、ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはないと考えられる。

#### 評価資料

資料番号	報告年	題名、出典（試験施設以外の場合） 試験施設、報告書番号 GLP 適合状況（必要な場合）、公表の有無	提出者
1	2012	Effects of isotianil tech. (Acute Contact and Oral) on Honey Bees ( <i>Apis mellifera</i> L.) in the Laboratory IBACON GmbH Report No.: RKW-0029 GLP、未公表	住友化学(株)
2	2016	Isotianil - Assessment of Effects on the Adult Honey Bee, <i>Apis mellifera</i> L., in a 10 Day Chronic Feeding Test under Laboratory Conditions Eurofins Agrosience Services Report No.: RKW-0065 GLP、未公表	住友化学(株)

#### 評価資料（公表文献）

該当なし

別添：適用病害虫の範囲及び使用方法（イソチアニル）

## 目 次

1. 登録番号 22698：スタウトダントツ箱粒剤、 登録番号 23618：ボクシー粒剤 （クロチアニジン 1.5%・イソチアニル 2.0%粒剤） .....	4
2. 登録番号 22699：スタウトダントツ箱粒剤 0 8、 登録番号 22700：ツインターボ箱粒剤 0 8 （クロチアニジン 0.80%・イソチアニル 2.0%粒剤） .....	8
3. 登録番号 22701：ルーチン粒剤、 登録番号 22702：クミアイルーチン粒剤 （イソチアニル 3.0%粒剤） .....	10
4. 登録番号 22703：ルーチンアドマイヤー箱粒剤、 登録番号 22704：クミアイルーチンアドマイヤー箱粒剤 （イミダクロプリド 2.0%・イソチアニル 2.0%粒剤） .....	11
5. 登録番号 22705：ルーチンアドスピノ箱粒剤 （イミダクロプリド 2.0%・スピノサド 1.0%・イソチアニル 2.0%粒剤） .....	12
6. 登録番号 22706：ルーチンアドスピノ G T箱粒剤、 登録番号 23039：シャリオ箱粒剤 （イミダクロプリド 2.0%・スピノサド 1.0%・イソチアニル 2.0%・チフルザミド 3.0%粒剤） ....	13
7. 登録番号 22707：ルーチンバリアード箱粒剤 （チアクロプリド 1.5%・イソチアニル 2.0%粒剤） .....	14
8. 登録番号 22708：ツインターボフェルテラ箱粒剤 （クロチアニジン 1.5%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤） .....	15
9. 登録番号 22915：ルーチントレス箱粒剤 （イミダクロプリド 2.0%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤） .....	16
1 0. 登録番号 23033：箱いり娘粒剤、 登録番号 23755：ボクシーWR 粒剤 （クロチアニジン 1.5%・スピネトラム 0.50%・イソチアニル 2.0%・フラメトピル 4.0%粒剤） .....	17
1 1. 登録番号 23186：スタウト顆粒水和剤 （イソチアニル 40.0%水和剤） .....	20
1 2. 登録番号 23195：ルーチンフロアブル （イソチアニル 18.3%水和剤） .....	21

1 3.	登録番号 23204：サイクルヒット箱粒剤、 登録番号 23205：フルターボ箱粒剤 (クロチアニジン 1.5%・クロラントラニプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%・フラメトピ ル 4.0%粒剤) .....	21
1 4.	登録番号 23206：スタウトダントツ顆粒水和剤、 登録番号 23207：ツインターボ顆粒水和剤 (クロチアニジン 15.0%・イソチアニル 20.0%水和剤) .....	22
1 5.	登録番号 23458：エバーゴルフオルテ箱粒剤 (イミダクロプリド 2.0%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤) .....	23
1 6.	登録番号 23459：エバーゴルワイド箱粒剤、 登録番号 23627：エバーゴルプラス箱粒剤 (イミダクロプリド 2.0%・クロラントラニプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフ エン 2.0%粒剤) .....	24
1 7.	登録番号 23511：箱王子粒剤 (クロチアニジン 1.5%・スピネトラム 0.50%・イソチアニル 2.0%粒剤) .....	25
1 8.	登録番号 23570：スタウトパディート箱粒剤、 登録番号 23571：ルーチンデュオ箱粒剤、 登録番号 23621：ツインパディート箱粒剤、 登録番号 23622：ルーチンパンチ箱粒剤 (シアントラニプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤) .....	27
1 9.	登録番号 23612：ボクシーS P粒剤 (クロチアニジン 1.5%・スピネトラム 0.50%・イソチアニル 2.0%粒剤) .....	29
2 0.	登録番号 23634：ルーチンエキスパート箱粒剤 (イミダクロプリド 2.0%・スピノサド 1.0%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤) .....	31
2 1.	登録番号 23773：スタウトパディートDX箱粒剤 (クロチアニジン 0.80%・シアントラニプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤) .....	32
2 2.	登録番号 23890：箱大臣粒剤 (クロチアニジン 1.5%・イソチアニル 2.0%・フラメトピル 4.0%粒剤) .....	34
2 3.	登録番号 24027：ハコナイト粒剤 (クロチアニジン 1.5%・フィプロニル 1.0%・イソチアニル 2.0%粒剤) .....	35
2 4.	登録番号 24029：ルーチンブライト箱粒剤 (シアントラニプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤) .....	36
2 5.	登録番号 24128：スクラム箱粒剤 (クロラントラニプロール 0.75%・トリフルメゾピリム 0.75%・イソチアニル 2.0%・ペンフ ルフェン 2.0%粒剤) .....	37
2 6.	登録番号 24129：防人箱粒剤 (クロラントラニプロール 0.75%・トリフルメゾピリム 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤) ..	38

27.	登録番号 24130：箱維新粒剤、 登録番号 24131：箱将軍粒剤 (クロラントラニリプロール 0.75%・トリフルメゾピリム 0.75%・イソチアニル 2.0%・フラメ トピル 4.0%粒剤) .....	39
28.	登録番号 24132：フルスロットル箱粒剤 (シアントラニリプロール 0.75%・トリフルメゾピリム 0.75%・イソチアニル 2.0%・ペンフル フェン 2.0%粒剤) .....	40
29.	登録番号 24158：ルーチンコア箱粒剤 (チアクロプリド 1.45%・イソチアニル 2.0%粒剤) .....	41
30.	登録番号 24194：ルーチンシードF S (イソチアニル 41.7%水和剤) .....	42
31.	登録番号 24319：ヨーバルトップ箱粒剤 (テトラニリプロール 1.5%・イソチアニル 2.0%粒剤) .....	43
32.	登録番号 24473：ミネクトブラスター顆粒水和剤 シアントラニリプロール 15.0%・イソチアニル 40.0%水和剤) .....	44
33.	登録番号 24474：ヨーバルパワーE V箱粒剤 テトラニリプロール 1.5%・ピメトロジン 3.0%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒 剤) .....	45
34.	登録番号 24475：ヨーバルプライムE V箱粒剤 (テトラニリプロール 1.5%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤) .....	46
35.	登録番号 24476：ヨーバルU G箱粒剤 (テトラニリプロール 1.5%・ピメトロジン 3.0%・イソチアニル 2.0%粒剤) .....	47
36.	登録番号 24514：スタウトアレス箱粒剤、 登録番号 24516：稲名人箱粒剤 (オキサズスルフィル 2.0%・イソチアニル 2.0%粒剤) .....	48
37.	登録番号 24597：ミネクトフォルスターS C (シアントラニリプロール 6.5%・イソチアニル 17.4%・ペンフルフェン 17.4%水和剤) .....	49
38.	登録番号 24615：スタウトアレスモンガレス箱粒剤、 登録番号 24616：稲大将箱粒剤 (オキサズスルフィル 2.0%・イソチアニル 2.0%・インピルフルキサム 2.0%粒剤) .....	50
39.	登録番号 ー※：レアフロアブル (イソチアニル 18.3%水和剤) .....	51

※新規登録申請中

1. 登録番号 22698 : スタウトダントツ箱粒剤、  
 登録番号 23618 : ボクシー粒剤  
 (クロチアニジン 1.5%・イソチアニル 2.0%粒剤)

(1) スタウトダントツ箱粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病 いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌)	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50 g	は種前	1回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	4回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
	内穎褐変病 イネミヅウムシ イネトオムシ ウカ類 ツマグロヨコバイ フタオビコヤガ ニカメイチュウ イネヒメハメグリハエ	高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50~100 g)					
	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌)	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50 g	は種時(覆土前)~移植当日		育苗箱の上から均一に散布する。		
	内穎褐変病 イネミヅウムシ イネトオムシ ウカ類 ツマグロヨコバイ フタオビコヤガ ニカメイチュウ イネヒメハメグリハエ	高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50~100 g)					
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50 g	は種時(覆土前)				
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50~100 g)					

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クチアジンを含む農薬の総使用回数	イチアールを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 イネミズゾウムシ イネトモイシ	1 kg/10 a	移植時	1回	側条施用	4回以内(直播での種時又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(直播での種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
湛水直播水稻	いもち病 イネミズゾウムシ イネトモイシ	1 kg/10 a	は種時	1回	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	4回以内(は種時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(は種時までの処理は1回以内、本田では2回以内)

(2) ボクシー粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアジンを含む農薬の総使用回数	イリチアルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病 いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 イネミズゾウムシ イネトノオイムシ ウカ類 ツマグロヨコバイ フタオビコヤガ ニカメイチュウ イネヒメハモグリハエ	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約5 L)1箱当り 50 g	は種前	1回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	4回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 イネミズゾウムシ イネトノオイムシ ウカ類 ツマグロヨコバイ フタオビコヤガ ニカメイチュウ イネヒメハモグリハエ		は種時(覆土前)~移植当日		育苗箱の上から均一に散布する。		
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病		は種時(覆土前)				
稲	いもち病 イネミズゾウムシ イネトノオイムシ	1 kg/10 a	移植時	1回	側条施用	4回以内(直播での種時又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(直播での種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)

作物名	適用病虫害名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアジンを含む農薬の総使用回数	イチアールを含む農薬の総使用回数
湛水直播水稻	いもち病 イメズゾウムシ イトロイシ		は種時		は種同時 施薬機を用いて土 中施用する。	4回以内(は種 時までの処理 は1回以内、本 田での散布、 空中散布、無 人航空機散布 は合計3回以 内)	3回以内(は種 時までの処理 は1回以内、本 田では2回以 内)

2. 登録番号 22699 : スタウトダントツ箱粒剤 0.8、  
 登録番号 22700 : ツインターボ箱粒剤 0.8  
 (クロチアニジン 0.80%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
湛水直播水稻	いもち病 イネズツウムシ イネノロイムシ	1 kg/10 a	は種時	1回	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	4回以内(は種時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(は種時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 イネズツウムシ イネノロイムシ ウカ類 ツマグロヨコバイ イネヒメモグリハ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50 g	は種前	1回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	4回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50~100 g)					
	イネノカムシ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50 g	移植当日		育苗箱の上から均一に散布する。		
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50~100 g)					

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クチアジンを 含む農薬の 総使用回数	イチアールを 含む農薬 の総使用 回数
稲 (箱育苗)	苗立枯細菌病 苗腐敗症(も み枯細菌病 菌)	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50 g	は種前	1回	育苗箱の床 土又は覆土 に均一に混 和する。	4回以内(移植 時までの処 理は1回以 内、本田での 散布、空中散 布、無人航空 機散布は合 計3回以内)	3回以内 (移植時ま での処理 は1回以 内、本田で は2回以 内)
		高密度には種す る場合は1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、使 用土壌約5 L)1箱 当り 50~100 g)					
		育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50 g	は種時(覆 土前)		育苗箱の上 から均一に 散布する。		
		高密度には種す る場合は1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、使 用土壌約5 L)1箱 当り 50~100 g)					
稲	いもち病 イネヌズムシ イネノロイシ	1 kg/10 a	移植時	1回	側条施用	4回以内(直播 での種時 又は移植時 までの処理 は1回以内、 本田での散 布、空中散 布、無人航空 機散布は合 計3回以内)	3回以内 (直播での は種時又 は移植時 までの処 理は1回以 内、本田で は2回以 内)

3. 登録番号 22701 : ルーチン粒剤、  
 登録番号 22702 : クミアイルーチン粒剤  
 (イソチアニル 3.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 苗立枯細菌病 もみ枯細菌病	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当たり50g	は種前	1回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌)				育苗箱の床土に均一に混和する。	
	穂枯れ(ごま葉枯病菌)				育苗箱の覆土に均一に混和する。	
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病		は種時(覆土前)		育苗箱の上から均一に散布する。	
	いもち病 白葉枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) もみ枯細菌病 内穎褐変病					
稲	いもち病 白葉枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌)	1 kg/10 a	収穫 30 日前まで	2 回以内	湛水散布	3 回以内(直播での種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)

4. 登録番号 22703 : ルーチンアドマイヤー箱粒剤、  
 登録番号 22704 : クミアイルーチンアドマイヤー箱粒剤  
 (イミダクロプリド 2.0%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	内穎褐変病 穂枯れ(ごま 葉枯病菌)	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g	移植当日	1 回	育苗箱の 上から均 一に散布 する。	3 回以内 (移 植時までの処 理は 1 回以 内、本田での 散布は 2 回以 内)	3 回以内(移 植時までの 処理は 1 回 以内、本田 では 2 回以 内)
	白葉枯病 もみ枯細菌病		は種時 (覆土前) ~ 移植当日		育苗箱の 上から均 一に散布 する。		
	いもち病 イネメダカバエ イネミスヅウムシ イネコロイムシ ツマグロヨコバイ ウカ類		は種前		育苗箱の 床土又は 覆土に均 一に混和 する。		
	イネザミウマ		は種時 (覆土前) ~ 移植当日		育苗箱の 上から均 一に散布 する。		
			は種前		育苗箱の 床土に均 一に混和 する。		

5. 登録番号 22705 : ルーチンアドスピノ箱粒剤

(イミダクロプリド 2.0%・スピノサド 1.0%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数	スピノサドを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	イネサシマ	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	移植 2 日前~ 移植当日	1 回	育苗箱の上から均一に散布する。	3 回以内 (移植時までの処理は 1 回以内、本田での散布は 2 回以内)	1 回	3 回以内 (移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)
	穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病		移植当日					
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病		は種時(覆土前)					
	白葉枯病 もみ枯細菌病 イネズゾウムシ イネトヨイシ ウカ類 ツマゲロヨコバイ イネヒメテグリハエ イネツトムシ フタオヒコヤガ ゴノメカガ ニカメチユウ いもち病		は種時(覆土前)~移植当日					
	イネズゾウムシ イネトヨイシ ウカ類 ツマゲロヨコバイ イネヒメテグリハエ イネツトムシ フタオヒコヤガ ゴノメカガ ニカメチユウ いもち病		は種前					
	イネサシマ		移植 2 日前~ 移植当日					
	穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病	移植当日						
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病	は種時(覆土前)						
		高密度には種する場合は 1 kg/10 a (育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)						

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数	スピノサドを含む農薬の総使用回数	イチアニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	白葉枯病 もみ枯細菌病 イネミズウムシ イネトモイムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ イネハマゲリハエ イネツトムシ フタヒコヤガ コブノメガ ニカメイチュウ いもち病	高密度には種する場合は1 kg/10 a (育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50~100 g)	は種時(覆土前)~移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	(移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	1回	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)

6. 登録番号 22706 : ルーチンアドスピノGT箱粒剤、

登録番号 23039 : シャリオ箱粒剤

(イミダクロプリド 2.0%・スピノサド 1.0%・イソチアニル 2.0%・チフルザミド 3.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数	スピノサドを含む農薬の総使用回数	イチアニルを含む農薬の総使用回数	チフルザミドを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	イネツトムシ ニカメイチュウ イネミズウムシ イネトモイムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ コブノメガ フタヒコヤガ いもち病 紋枯病 白葉枯病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50 g	移植2日前~移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	1回	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
	もみ枯細菌病 内穎褐変病		移植当日						

7. 登録番号 22707：ルーチンバリアード箱粒剤  
 (チアクロプリド 1.5%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアクロプリドを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いぼろいん いんすづうん つまぐろよこばい こめいぢゅう いもち病	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壤約 5 L)1 箱当り 50 g	は種前	1 回	育苗箱の 床土又は 覆土に均 一に混和 する。	1 回	3 回以内(移 植時までの 処理は 1 回 以内、本田 では 2 回以 内)
	白葉枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌)		は種時(覆 土前)~移 植当日		育苗箱の 上から均 一に散布 する。		
	苗腐敗症(もみ枯細菌 病菌)		は種時(覆 土前)				
	もみ枯細菌病		移植当日				

8. 登録番号 22708 : ツインターボフェルテラ箱粒剤

(クロチアニジン 1.5%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数	
稲 (箱育苗)	いもち病 穂枯れ(ごま 葉枯病菌) 白葉枯病 イネミズゾウムシ イネトヨイムシ ウカ類 ツマグロヨコバイ コメイチユ フタホトコヤカ イネトムシ コブノメイガ 内穎褐変病	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種時 (覆土 前)~移植 当日	1 回	育苗箱の 上から均 一に散布 する。	4 回以内 (移植時 までの 処理は 1 回以内、 本田で の散布、 空中散 布、無人 へ散布 は合計 3 回以内)	1 回	3 回以内 (移植時 までの 処理は 1 回以内、 本田で は 2 回 以内)	
	苗腐敗症(も み枯細菌病 菌)	高密度には種 する場合は 1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)							
		育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種時 (覆土前)						
	穂枯れ(ごま 葉枯病菌)	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種前						育苗箱の 床土に均 一に混和 する。
	いもち病 白葉枯病 内穎褐変病								育苗箱の 床土又は 覆土に均 一に混和 する。
	穂枯れ(ごま 葉枯病菌)								育苗箱の 床土に均 一に混和 する。
いもち病 白葉枯病 内穎褐変病	育苗箱の 床土又は 覆土に均 一に混和 する。								

9. 登録番号 22915 : ルーチントレス箱粒剤

(イミダクロプリド 2.0%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌)	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1箱当り 50 g	は種前	1回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	1回	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
	イネアサミウマ イネツトムシ ツマグロヨコバイ ウカ類 イネヒメモグリハエ イネミスヅウムシ イネノオウムシ コブノメイガ ヒカメイチユウ フタバヒコヤガ いもち病		は種時(覆土前)~ 移植当日		育苗箱の上から均一に散布る。			
	穂枯れ(ごま葉枯病菌) 白葉枯病 もみ枯細菌病		は種時(覆土前)					
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌)		移植当日					
	内穎褐変病		移植当日					

10. 登録番号 23033 : 箱入り娘粒剤、

登録番号 23755 : ボクシーWR 粒剤

(クロチアニジン 1.5%・スピネトラム 0.50%・イソチアニル 2.0%・フラメトピル 4.0%粒剤)

(1) 箱入り娘粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	スピネトラムを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数	フラメトピルを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 紋枯病 イネトロイムシ イネミスゾウムシ コメイチュウ	1 kg/10 a	移植時	1回	側条施用	4回以内 (直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内 (直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	3回以内 (直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内 (直播では種時又は移植時までの処理は1回以内)
湛水直播水稻	いもち病 紋枯病 イネミスゾウムシ イネトロイムシ コメイチュウ フタホビコヤカ イネツトムシ キリウジカガコンボ	1 kg/10 a	は種時	1回	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	4回以内 (は種時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内 (は種時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	3回以内 (は種時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内 (は種時までの処理は1回以内)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クチアジンを含む農薬の総使用回数	スピネラムを含む農薬の総使用回数	イチアニルを含む農薬の総使用回数	フラムピルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 紋枯病 白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 疑似紋枯症(褐色紋枯病菌) 疑似紋枯症(赤色菌核病菌) 疑似紋枯症(褐色菌核病菌) ウカ類 ツマグロヨコバイ コブノメイガ フタオビコヤカ イネミスゾウムシ イネトロイムシ イネツトムシ コメイチユ イネヒメハモグリハエ	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50 g	移植7日前~ 移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	4回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50~100 g)							

(2) ボクシーWR 粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クチアジソンを含む農薬の総使用回数	スピノラムを含む農薬の総使用回数	イザアールを含む農薬の総使用回数	フラトピールを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 紋枯病 イネミズゾウムシ イネトヨイムシ ニカメイチュウ	1 kg/10 a	移植時	1回	側条施用	4回以内(直播での場合は種時又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(直播での場合は種時又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	3回以内(直播での場合は種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内(直播での場合は種時又は移植時までの処理は1回以内)
湛水直播水稻	いもち病 紋枯病 イネミズゾウムシ イネトヨイムシ ニカメイチュウ フタオヒコヤガ イネツムシ キウジガガンボ	1 kg/10 a	は種時	1回	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	4回以内(は種時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(は種時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	3回以内(は種時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内(は種時までの処理は1回以内)
稲 (箱育苗)	いもち病 紋枯病 白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 疑似紋枯症(褐色紋枯病菌) 疑似紋枯症(赤色菌核病菌) 疑似紋枯症(褐色菌核病菌) ウカ類 ツマグロヨコバイ コブノメガ フタオヒコヤガ イネミズゾウムシ イネトヨイムシ イネツムシ ニカメイチュウ イネヒメハモグリハエ	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50 g	移植7日前~移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	4回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内(移植時までの処理は1回以内)

1 1. 登録番号 23186 : スタウト顆粒水和剤  
(イソチアニル 40.0%水和剤)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 内穎褐変病 もみ枯細菌病 白葉枯病	200 倍	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 500 mL	は種時覆 土前~移植 当日	1 回	灌注	3 回以内(移 植時までの 処理は 1 回 以内、本田 では 2 回以 内)
		高密度には種する 場合は 50 g/10 a(育 苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱 当り 2.5~5 g(希釈倍 数 100~200 倍))					
		400 倍	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 1000 mL				
		高密度には種する 場合は 50 g/10 a(育 苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱 当り 2.5~5 g(希釈倍 数 200~400 倍))					
	苗腐敗症(も み枯細菌病 菌)	200 倍	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 500 mL	は種時覆 土前			
		高密度には種する 場合は 50 g/10 a(育 苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱 当り 2.5~5 g(希釈倍 数 100~200 倍))					
		400 倍	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 1000 mL				
		高密度には種する 場合は 50 g/10 a(育 苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱 当り 2.5~5 g(希釈倍 数 200~400 倍))					

1 2. 登録番号 23195 : ルーチンフロアブル  
(イソチアニル 18.3%水和剤)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 内穎褐変病	75~100 倍	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 0.5 L	移植 3 日前~移植当日	1 回	灌注	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)
	もみ枯細菌病	75 倍					
稲	いもち病	原液	100 mL/10 a	移植時		ペースト肥料に混合し側条施肥田植機で施用する。	3 回以内(直播では種時又は移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)

1 3. 登録番号 23204 : サイクルヒット箱粒剤、  
登録番号 23205 : フルターゴ箱粒剤  
(クロチアニジン 1.5%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%・フラメトピル 4.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数	フラメトピルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 紋枯病 白葉枯病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) ウカ類 ツマグロヨコバイ イネズミゾウムシ イネノコイムシ コメイチユ イネトムシ フタホビコヤカ イネヒメモグリハエ コブノメカ	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	移植 3 日前~移植当日	1 回	育苗箱の上から均一に散布する。	4 回以内 (移植時までの処理は 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計 3 回以内)	1 回	3 回以内 (移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)	2 回以内 (移植時までの処理は 1 回以内)
		高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)							

1 4. 登録番号 23206 : スタウトダントツ顆粒水和剤、  
 登録番号 23207 : ツインターゴ顆粒水和剤  
 (クロチアニジン 15.0%・イソチアニル 20.0%水和剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の使 用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農 薬の総使用回数	イソチアニルを含む 農薬の総使用 回数
稲	いもち病 イネトモイシ イネズソウムシ	100 g/10 a	移植時	1 回	ペーシ肥料 に混合し 側条施肥 田植機で 施用する。	4 回以内(直播での は種時又は移植時 までの処理は 1 回 以内、本田での散 布、空中散布、無人 航空機散布は合計 3 回以内)	3 回以内(直播 での種時又は 移植時までの 処理は 1 回 以内、本田で は 2 回以内)

作物名	適用 病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用 時期	本剤 の使 用回 数	使用 方法	クロチアニジンを含 む農薬の 総使用回数	イソチアニルを含 む農薬の総 使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 イネトモイシ イネズソウムシ	100 倍	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壤約 5 L)1 箱当たり 500 mL	移植 3 日 前~ 移植 当日	1 回	灌注	4 回以内(移 植時までの 処理は 1 回 以内、本田で の散布、空中 散布、無人航 空機散布は 合計 3 回以 内)	3 回以内(移 植時までの 処理は 1 回 以内、本田で は 2 回以内)
		高密度には種 する場合は 100g/10a(育苗 箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 5~10 g(希釈倍 数 50~100 倍))						

15. 登録番号 23458 : エバーゴルフオルテ箱粒剤

(イミダクロプリド 2.0%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数	ペンフルフェンを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	イネスズウムシ イネトヨイムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ いもち病 紋枯病	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壤約5 L)1箱 当り50 g	は種前	1回	育苗箱の 床土又は 覆土に均 一に混和 する。	3回以内 (移植時ま での処理 は1回以 内、本田 での散布 は2回以 内)	3回以内 (移植時ま での処理 は1回以 内、本田 では2回以 内)	1回
	白葉枯病		は種時 (覆土 前)~移 植当日		育苗箱の 上から均 一に散布 する。			
	疑似紋枯症(褐 色紋枯病菌) 疑似紋枯症(赤 色菌核病菌) 内穎褐変病 穂枯れ(ごま葉 枯病菌) もみ枯細菌病	移植当 日						
	白葉枯病 イネスズウムシ イネトヨイムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ いもち病 紋枯病	高密度には種 する場合は1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約5 L)1箱当り 50~100 g)	移植3 日前~ 移植当 日					

16. 登録番号 23459 : エバーゴルワイド箱粒剤、  
登録番号 23627 : エバーゴルプラス箱粒剤  
(イミダクロプリド 2.0%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル  
2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数	ペンフルフェンを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	穂枯れ(ごま葉枯病菌) 白葉枯病 内穎褐変病	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壤約5 L)1箱 当り50 g	は種時 (覆土前)~ 移植当日	1回	育苗箱の 上から均 一に散布 する。	3回以内(移 植時まで の処理は1 回以内、 本田での 散布は2回 以内)	1回	3回以内 (移植時 までの処 理は1回 以内、本 田では2 回以内)	1回
	疑似紋枯症(褐色 紋枯病菌) 疑似紋枯症(赤色 菌核病菌) 疑似紋枯症(褐色 菌核病菌) もみ枯細菌病		移植当日						
	イネトコイムシ イネスズガムシ カカ類 ツマグロヨコバイ コメテウユ コブメカイ イネトムシ ワタヒコヤガ いもち病 紋枯病		は種時 (覆土前)~ 移植当日						
	穂枯れ(ごま葉枯病菌) 白葉枯病 内穎褐変病	高密度には 種する場 合は1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、使用 土壌約5 L)1箱当り 50~100 g)	移植3日 前~移植 当日		育苗箱の 上から均 一に散布 する。				
	疑似紋枯症(褐色 紋枯病菌) 疑似紋枯症(赤色 菌核病菌) 疑似紋枯症(褐色 菌核病菌) もみ枯細菌病		移植当日						

17. 登録番号 23511：箱王子粒剤

(クロチアニジン 1.5%・スピネトラム 0.50%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	スピネトラムを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
湛水直播水稲	いもち病 イネズソウムシ イネトオイムシ コメイチユウ フタバコヤカ イネトムシ キウジカガ ホ	1 kg/10 a	は種時	1回	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	4回以内 (は種時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内 (は種時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	3回以内 (は種時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) ウカ類 ツマグロヨコバイ イネズソウムシ イネトオイムシ コメイチユウ フタバコヤカ ゴブノメカ イネトムシ	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1箱当り 50 g	は種前	1回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	4回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1箱当り 50~100 g)						
	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1箱当り 50 g	は種時(覆土前)~移植当日	育苗箱の上から均一に散布する。					
イネヒメモグリ バエ	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1箱当り 50 g	移植3日前~移植当日						
	高密度には種する場合は1kg/10a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1箱当り 50~100 g)							

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤 の使 用回 数	使用 方法	クチアジンを 含む農 薬の総使 用回数	スピネラム を含む農 薬の総使 用回数	イザアールを 含む農薬 の総使用 回数
稲 (箱育苗)	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種前	1 回	育苗箱 の床土 又は覆 土に均 一に混 和する。	4 回以内 (移植時 までの処 理は 1 回 以内、本 田での散 布、空中 散布、無 人航空機 散布は合 計 3 回以 内)	3 回以内 (移植時 までの処 理は 1 回 以内、本 田での散 布は 2 回 以内)	3 回以内 (移植時 までの処 理は 1 回 以内、本 田では 2 回 以内)
		高密度には種 する場合は 1kg/10a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)						
		育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種時 (覆土前)		育苗箱 の上か ら均一 に散布 する。			
		高密度には種 する場合は 1kg/10a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)						

18. 登録番号 23570 : スタウトパディート箱粒剤、  
 登録番号 23571 : ルーチンデュオ箱粒剤、  
 登録番号 23621 : ツインパディート箱粒剤、  
 登録番号 23622 : ルーチンパンチ箱粒剤  
 (シアントラニプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニプロールを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 イモムシ イモムシ	1 kg/10 a	移植時	1 回	側条施用	1 回	3 回以内(直播での場合は種時又は移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 イモムシ イモムシ フタヒコヤガ コメテウ ツマゲロコハイ イモムシ コメテウ イモムシ類 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 イモムシ ヒメヒコヤガ 苗腐敗症(もみ枯細菌病) 苗立枯細菌病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種前	1 回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	1 回	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)
	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 イモムシ イモムシ フタヒコヤガ コメテウ ツマゲロコハイ イモムシ コメテウ イモムシ類 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 イモムシ ヒメヒコヤガ	高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)					
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 イモムシ イモムシ フタヒコヤガ コメテウ ツマゲロコハイ イモムシ コメテウ イモムシ類 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 イモムシ ヒメヒコヤガ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種時(覆土前)~移植当日	1 回	育苗箱の上から均一に散布する。	1 回	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、
	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 イモムシ イモムシ フタヒコヤガ コメテウ ツマゲロコハイ イモムシ コメテウ イモムシ類 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 イモムシ ヒメヒコヤガ	高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)					

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シントラニプロールを含む農薬の総使用回数	イチフェールを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種時 (覆土前)	1 回	育苗箱の上から均一に散布する。	1 回	本田では 2 回以内)
		高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)					

19. 登録番号 23612 : ボクシー S P 粒剤

(クロチアニジン 1.5%・スピネトラム 0.50%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	スピネトラムを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
湛水直播水稻	いもち病 イネツムシ イネトオイムシ イネミスゾウムシ キウジガガンボ ニカメイト フタオビコヤガ	1 kg/10 a	は種時	1 回	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	4 回以内 (は種時までの処理は 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計 3 回以内)	3 回以内 (は種時までの処理は 1 回以内、本田での散布は 2 回以内)	3 回以内 (は種時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) ウンカ類 ツマクロコハイ イネミスゾウムシ イネトオイムシ ニカメイト フタオビコヤガ コブメイト イネツムシ	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種前	1 回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	4 回以内 (移植時までの処理は 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計 3 回以内)	3 回以内 (移植時までの処理は 1 回以内、本田での散布は 2 回以内)	3 回以内 (移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)
	移植 3 日前~移植当日		育苗箱の上から均一に散布する。					
	イネヒメダカ		移植 3 日前~移植当日					

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クチアジンを含む農薬の総使用回数	スピ・ネラムを含む農薬の総使用回数	イチアニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	苗腐敗症(もみ枯細菌病) 苗立枯細菌病	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌 約5L)1 箱当り 50g	は種前	1回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	4回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
			は種時(覆土前)		育苗箱の上から均一に散布する。			

20. 登録番号 23634：ルーチンエキスパート箱粒剤

(イミダクロプリド 2.0%・スピノサド 1.0%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数	スピノサドを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数	ペンフルフェンを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	イネスズムシ イネトヨイムシ ウカ類 ツマグロヨコバイ ゴブノメカ フタヒコカ ニカメチユ イネツムシ いもち病 紋枯病 白葉枯病 疑似紋枯症 (褐色菌核病菌) 疑似紋枯症 (褐色紋枯病菌) 疑似紋枯症 (赤色菌核病菌) 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壤約 5 L)1 箱 当り 50 g	は種時 (覆土 前)~移 植当日	1 回	育苗箱 の上か ら均一 に散布 する。	3 回以内 (移植時 までの 処理は 1 回以 内、本 田での 散布は 2 回以 内)	1 回	3 回以内 (移植時 までの 処理は 1 回以 内、本 田では 2 回以 内)	1 回
		高密度には種 する場合は 1kg/10a(育苗 箱(30×60×3 cm、使用土 壤約 5 L)1 箱当 り 50~100 g)	移植 3 日前~ 移植当 日						
	もみ枯細菌病	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壤約 5 L)1 箱 当り 50 g	移植当 日						

2 1. 登録番号 23773 : スタウトパディートD X箱粒剤

(クロチアニジン 0.80%・シアントラニプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	シアントラニプロールを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 イネミズゾウムシ イネトモイシ ウカ類 ツマグロヨコバイ イネツトムシ フタオビコヤガ ニカメイチュウ 苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50 g	は種前	1回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する	4回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	1回	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 イネミズゾウムシ イネトモイシ ウカ類 ツマグロヨコバイ イネツトムシ フタオビコヤガ ニカメイチュウ 穂枯れ(ごま葉枯病菌)	高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50~100 g)	は種時(覆土前)~移植当日		育苗箱の上から均一に散布する			
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50 g 高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50~100 g)	は種時(覆土前)					
	ウカ類	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50 g 高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50~100 g)	移植3日前~移植当日					

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クチアジンを含む農薬の総使用回数	シアントラニプロールを含む農薬の総使用回数	イチアニルを含む農薬の総使用回数
稲	イネミズウムシ イネトヨイムシ	1 kg/10 a	移植時	1回	側条施用	4回以内(直播での種時又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	1回	3回以内(直播での種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)

2.2. 登録番号 23890 : 箱大臣粒剤

(クロチアニジン 1.5%・イソチアニル 2.0%・フラメトピル 4.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数	フラメトピルを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 紋枯病 イネヌズウムシ イネトヨイシ	1 kg/10 a	移植時	1回	側条施用	4回以内(直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内(直播では種時又は移植時までの処理は1回以内)
湛水直播水稲	いもち病 紋枯病 イネヌズウムシ イネトヨイシ キウジガガンボ	1 kg/10 a	は種時	1回	は種同時施薬機を用いて土中施用する	4回以内(は種時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(は種時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内(は種時までの処理は1回以内)
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 紋枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) もみ枯細菌病 内穎褐変病 イネヌズウムシ イネトヨイシ ウカ類 ツマグロヨコバイ ニカメテユ フタホコヤガ	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50 g  高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50~100 g)	移植 7日前~ 移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する	4回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内(移植時までの処理は1回以内)

23. 登録番号 24027：ハコナイト粒剤

(クロチアニジン 1.5%・フィプロニル 1.0%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	フィプロニルを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 イネミズゾウムシ ツマゲロヨコバイ ウカ類 コブノメカ イネコ類 イネトロイムシ フタホコヤカ ニカメイト イネツトムシ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50 g	は種前	1回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する	4回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	1回	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50~100 g)						
		育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50 g	は種時(覆土前)~移植当日		育苗箱の上から均一に散布する			
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5L)1箱当り 50~100 g)						

24. 登録番号 24029：ルーチンブライト箱粒剤

(シアントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニプロールを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数	ペンフルフェンを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 もみ枯細菌病 紋枯病 白葉枯病 内穎褐変病 イネトモイシ イネツムシ ニカメテウ フタオビコヤガ コブノメカ イネミスゾウムシ ツマガシロヨコバイ イナゴ類 ヒメトビウカ	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種時 (覆土前)~移植当日	1 回	育苗箱の上から均一に散布する。	1 回	3 回以内 (移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)	1 回
		高密度には種する場合は 1 kg/10 a 育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)	移植 3 日前~移植当日					
	穂枯れ(ごま葉枯細菌) 疑似紋枯症(褐色紋枯細菌) 疑似紋枯症(赤色菌核細菌) 疑似紋枯症(褐色菌核細菌) イネヒメモグリハエ	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	移植当日					

25. 登録番号 24128 : スクラム箱粒剤

(クロラントラニプロール 0.75%・トリフルメゾピリム 0.75%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニプロールを含む農薬の総使用回数	トリフルメゾピリムを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数	ペンフルフェンを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 紋枯病 ウカ類 ツガ <sup>ロ</sup> コハ <sup>イ</sup> ゴ <sup>ノ</sup> メ <sup>カ</sup> フタヒ <sup>コ</sup> カ <sup>カ</sup>	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱 当り50 g	は種時覆土前~ 移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	1回	1回	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	1回
	もみ枯細菌病 白葉枯病 内穎褐変病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 疑似紋枯症(褐色紋枯病菌) 疑似紋枯症(赤色菌核病菌) イヅト <sup>ム</sup> イネ <sup>ト</sup> オ <sup>イ</sup> ム <sup>シ</sup> イネ <sup>ス</sup> ゾ <sup>ウ</sup> ム <sup>シ</sup> ニカ <sup>メ</sup> チ <sup>ユ</sup>	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱 当り50 g							
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50~100 g)							

26. 登録番号 24129 : 防人箱粒剤

(クロラントラニプロール 0.75%・トリフルメゾピリム 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニプロールを含む農薬の総使用回数	トリフルメゾピリムを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 もみ枯細菌病 白葉枯病 内穎褐変病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) イネズヅウムシ イネトヨイムシ ウカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイチユ コブノメガ フタホヒコヤガ イネトムシ	育苗箱30×60×3 cm、使用土壌約5 L) 1箱当り 50 g	は種時(覆土前)~移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する	1回	1回	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
	高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50~100 g)	は種時(覆土前)						
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌)		育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L) 1箱当り 50 g					
稲	いもち病 ウカ類 コブノメガ	1 kg/10 a	移植時		側条施用			3回以内(直播での種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)

27. 登録番号 24130 : 箱維新粒剤、

登録番号 24131 : 箱将軍粒剤

(クロラントラニプロール 0.75%・トリフルメゾピリム 0.75%・イソチアニル 2.0%・フラメトピル 4.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニプロールを含む農薬の総使用回数	トリフルメゾピリムを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数	フラメトピルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 紋枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) もみ枯細菌病 内穎褐変病 白葉枯病 イネスズムシ イネトイモシ ウカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ イネトムシ アオビコヤガ コブノメイガ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50 g  高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50~100 g)	移植7日前~移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する	1回	1回	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内(移植時までの処理は1回以内)

28. 登録番号 24132 : フルスロットル箱粒剤

(シアントラニプロール 0.75%・トリフルメゾピリム 0.75%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤 の使 用回 数	使用 方法	シアントラニ プロールを 含む農薬 の総使用 回数	トリフルメ ゾピリムを 含む農薬 の総使用 回数	イソチアニルを 含む農薬 の総使用 回数	ペンフルフェン を含む農 薬の総使 用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 紋枯病 白葉枯病 もみ枯細菌病 ウカ類 ツマガ <sup>ロヨコハイ</sup> イネミズゾウムシ イネト <sup>ロイムシ</sup> コブ <sup>ノメカ</sup> ニカメ <sup>チュウ</sup> フタビ <sup>コヤカ</sup> イネツムシ	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g 高密度には種 する場合は 1 kg/10 a(育苗 箱(30×60×3 cm、使用土 壌約 5 L)1 箱 当り 50~100 g)	は種時 (覆土 前)~移植 当日	1 回	育苗箱の 上から均 一に散布 する。	1 回	1 回	3 回以内 (移植時ま での処理 は 1 回以 内、本田 では 2 回 以内)	1 回
	内穎褐変病 穂枯れ(ごま葉枯 病菌) 疑似紋枯症(褐色 紋枯病菌) 疑似紋枯症(赤色 菌核病菌) 付コ <sup>類</sup>	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g 高密度には種 する場合は 1 kg/10 a(育苗 箱(30×60×3 cm、使用土 壌約 5 L)1 箱 当り 50~100 g)	移植当 日						

29. 登録番号 24158 : ルーチンコア箱粒剤

(チアクロプリド 1.45%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアクロプリドを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	イネドロイムシ イネヒメハモグリハエ ツマグロヨコバイ イネミスズウムシ コメイチユ	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り 50g	移植3日前~移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	1回	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
	いもち病 白葉枯病 内穎褐変病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) もみ枯細菌病	高密度には種する場合は1kg/10a(育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り 50~100g)					

30. 登録番号 24194 : ルーチンシード F S  
 (イソチアニル 41.7%水和剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稲	穂枯れ(ごま葉枯病菌) 白葉枯病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 いもち病	乾燥種もみ 1 kg 当 り原液 6~12 mL(原 液 71 mL/10 a まで)	は種前	1 回	塗沫 処理	3 回以内(直播での は種時又は移植時 までの処理は 1 回 以内、本田では 2 回以内)

3 1. 登録番号 24319 : ヨーバルトップ箱粒剤

(テトラニプロール 1.5%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	テトラニプロールを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 内穎褐変病 もみ枯細菌病 イネ <sup>レ</sup> ロイムシ ツマグロヨコバイ コブノメイガ <sup>レ</sup> イネツムシ コメテユウ イネミスヅウムシ フタホヒコヤガ <sup>レ</sup> イナゴ類 苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~75 g	は種前	1 回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	1 回	3 回以内 (移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)
	いもち病 白葉枯病 内穎褐変病 もみ枯細菌病 イネ <sup>レ</sup> ロイムシ ツマグロヨコバイ コブノメイガ <sup>レ</sup> イネツムシ コメテユウ イネミスヅウムシ フタホヒコヤガ <sup>レ</sup> イナゴ類	高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)	は種時(覆土前)~移植当日				
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~75 g	は種時(覆土前)		苗箱の上から均一に散布する。		
		高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)					
	穂枯れ(ごま葉枯病菌) イネヒメハモガ <sup>レ</sup> リアエ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~75 g	移植 3 日前~移植当日				
		高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)					

3 2. 登録番号 24473 : ミネクトブラスター顆粒水和剤

(シアントラニプロール 15.0%・イソチアニル 40.0%水和剤)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニプロールを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 イネトモイムシ イネミスヅウムシ コメイチユウ イネトムシ フタホヒコヤガ イコ類 もみ枯細菌病 内穎褐変病	200 倍	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壤約 5 L) 1 箱 当り 0.5 L	は種時 ~移植 当日	1 回	灌注	1 回	3 回以内 (移植時 までの処 理は 1 回 以内、本 田では 2 回以内)
	いもち病 イネトモイムシ イネミスヅウムシ コメイチユウ	400 倍	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壤約 5 L) 1 箱 当り 1 L	は種時				
	いもち病 イネトモイムシ イネミスヅウムシ コメイチユウ イネトムシ フタホヒコヤガ イコ類 もみ枯細菌病 内穎褐変病	高密度には種 する場合は 50 g/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 2.5~5 g(希釈倍 数 100~200 倍))	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壤約 5 L) 1 箱 当り 0.5 L	移植 10 日前~ 移植当 日				

33. 登録番号 24474 : ヨーバルパワーE V箱粒剤

(テトラニプロール 1.5%・ピメトロジン 3.0%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	テトラニプロールを含む農薬の総使用回数	ピメトロジンを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数	ペンフルフェンを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 紋枯病 白葉枯病 イネトモイシ イネミスゾウムシ コメチユウ コブノメイガ イネツムシ フタホトコヤカ ツマクハロコハ イネヒメハモグリハエ ウンカ類 イコ類	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種時 (覆土前)~移植 当日	1 回	育苗 箱の上から均一に 散布する。	1 回	3 回以内(移植時 までの処理は 1 回 以内、本田では 2 回 以内)	3 回以内 (移植時 までの処理は 1 回 以内、本田では 2 回以内)	1 回
	高密度には種する 場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)	移植 3 日前~移 植当日							
	内穎褐変病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま 葉枯病菌)		育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g						

34. 登録番号 24475 : ヨーバルプライムEV箱粒剤

(テトラニプロール 1.5%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	テトラニプロールを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数	ペンフルフェンを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 いぬすづうみん	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壤約 5 L)1 箱 当り 50 g	は種前	1 回	育苗箱の 床土又は 覆土に均 一に混和 する。	1 回	3 回以内 (移植時ま での処理 は 1 回以 内、本田 では 2 回 以内)	1 回
	いもち病 いぬすづうみん 紋枯病 白葉枯病 いねとみん こまめいぢゅう こまめいぢゅう いねとみん ふたおこやが つまぐろこばい いねとみん いねとみん	高密度には種 する場合は 1 kg/10 a(育苗 箱(30×60×3 cm、使用土 壤約 5 L)1 箱 当り 50~100 g)	は種 時(覆 土前)~ 移植 当日		育苗箱の 上から均 一に散布 する。			
	内穎褐変病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉 枯病菌)	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壤約 5 L)1 箱 当り 50 g 高密度には種 する場合は 1 kg/10 a(育苗 箱(30×60×3 cm、使用土 壤約 5L)1 箱 当り 50~100 g)	移植 3 日前~ 移植 当日					



36. 登録番号 24514 : スタウトアレス箱粒剤、

登録番号 24516 : 稲名人箱粒剤

(オキサゾスルフィル 2.0%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	オキサゾスルフィルを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 イネスズムシ イネトヨイムシ コメイチュウ	1 kg/10 a	移植時	1回	側条施用	1回	3回以内(直播での場合は種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 イネスズムシ イネトヨイムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ コメイチュウ フタホトコヤガ イネトムシ コブメイガ イナコ類 イネヒメハモグリハエ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50 g	は種前	1回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	1回	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5L)1箱当り 50~100 g)					
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50 g	は種時(覆土前)~移植当日		育苗箱の上から均一に散布する。		
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5L)1箱当り 50~100 g)					
		育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50 g	は種前		育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。		

37. 登録番号 24597：ミネクトフォルスターSC

(シアントラニプロール 6.5%・イソチアニル 17.4%・ペンフルフェン 17.4%水和剤)

作物名	適用 病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用 時期	本剤 の使用 回数	使用 方法	シアントラニプロールを含む 農薬の総 使用回数	イソチアニル を含む 農薬の 総使用 回数	ペンフル フェンを含 む農薬 の総使 用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 イネノメイヌ イネノコメチユウ イネノシロイヌ イネノシロイヌ	100 倍	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壤約 5 L) 1 箱当り 0.5 L	移植 10 日 前~移 植当 日	1 回	灌注	1 回	3 回以内 (移植 時ま での処 理は 1 回 以内、 本田 では 2 回 以内)	1 回
	いもち病 イネノメイヌ イネノコメチユウ イネノシロイヌ イネノシロイヌ	高密度には種 する場合は、 100 mL/10 a(育 苗箱(30×60×3 cm、使用土 壤約 5L)1 箱当り 5~10 mL(希釈 倍数 50~100 倍))	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壤約 5 L) 1 箱当り 0.5 L	移植 10 日 前~移 植当 日	1 回	灌注			

38. 登録番号 24615 : スタウトアレスモンガレス箱粒剤、  
登録番号 24616 : 稲大将箱粒剤

(オキサゾスルフィル 2.0%・イソチアニル 2.0%・インピルフルキサム 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	オキサゾスルフィルを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数	インピルフルキサムを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	イネミズウムシ イネトモイムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ コメイチユウ フタホトコヤカ イネツトムシ コブノメイガ イコゴ類 いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 紋枯病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種前(覆土前)~移植当日	1 回	育苗箱の上から均一に散布する	1 回	3 回以内 (移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)	1 回
	苗立枯細菌病 苗腐敗症(もみ枯細菌病菌)	高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50~100 g)						
稲	いもち病 紋枯病	1 kg/10 a	移植時		側条施用		3 回以内 (直播での場合は種時又は移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)	

39. 登録番号 - :レアフロアブル  
 (イソチアニル 18.3%水和剤)

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用方法	イソチアニルを含む 農薬の総使用 回数
てんさい	褐斑病	400 倍	ペーパー ポット 1 冊当り 1 L(3 L/m <sup>2</sup> )	定植 3 日前~定 植当日	1 回	灌注	1 回